

神代心語常寂草
下

リ 5
1582
34



リ 5
新
巻



神代正流下巻

○四むけ抄より此後

天照大神神乃命よりして、
 乃、秋の長五百秋の水穂、
 吾乃子正勝者、
 耳命此也、
 ひく、
 思徳耳命、
 秋乃三づね、



△四むけ抄より此後

○千秋の長五百秋の水穂、
 伊弉國の神代、
 水乃かり、
 天の、
 思徳耳命、
 秋乃三づね、

下

おなからまでかつてこゝとまをさぐり
きぬらふ天照大神神言はれ
粟日神又もろくの神もろよ
同まろく天照日子ろくろ
とまをさぐり又いばまれ神をけ
かろてり天照日子ろくろ
留所由同
まろくろくろとろいばむと同
強ひまろくろ神をろ又もろ
神もろくろ維名鳴也とつろり
てむとまをさぐり其名鳴也

うす○天佐具女天の石
舟よあつて降ると一見白若日
古く婢なり名のまの邪心して他
心と撥女より後十とてくろり
といふと○高木神の木の
具比の切ると即ち産巢日
といふと○角杖神を姓氏録の
角疑魂命といふとて
ふと○胡床の揚座の
まろくろくろ○高胸坂の
といふと○高胸坂の
仰ふと○まろくろの
といふと○頓使の副使と
あく従者もなくいふとらふ勅命と
まろくろ受て独使ふりて死てかへ
まろくろ今ふ重き使ふの雄の頓使
とて独行まろくろ

おなからまでかつてこゝとまをさぐり
きぬらふ天照大神神言はれ
粟日神又もろくの神もろよ
同まろく天照日子ろくろ
とまをさぐり又いばまれ神をけ
かろてり天照日子ろくろ
留所由同
まろくろくろとろいばむと同
強ひまろくろ神をろ又もろ
神もろくろ維名鳴也とつろり
てむとまをさぐり其名鳴也

天若日古よの山書ふあつて
この重き勅使ふくろくろ却て
敵の姫を妻として其国を奪えん
と邪の太なるより従ふもの邪
かまへ進めて勅使の雄を殺し
め罪ふれをかまひより高木神
の返一失ふあつて男をせり
よして神と命をも更あつて中
頃の乱世も却忠を身を失ひ
つはまてても名穢るやにあら
まろく勤功を尽せ武士を
神と秘へるまろくもまろく其
いひまろく神も神をいへる
らして惟神あつて○下照江賣
せむ声風ふくろく天ふ
大國主の命は比賣御子下照姫とい
わこの徳ある神のひまろく

是乃天子此神維多為事
と射殺し給へし事
言ふ事と云ふ事ありて
言ふ事と云ふ事ありて
言ふ事と云ふ事ありて
言ふ事と云ふ事ありて



そびへりきげ時阿達志貴高
いこぬのそびへりきげ
日孖根神末等て天有日孖の
も 喪ととつひに終ふ時よ天より
あめ へりきげつる天よりひこが父又
吾 其書皆笑く阿が子ハ志れす
在 て阿はくりあが君を志るんこり
取 坐くるとあひくもまにたり
悲 阿そださるる阿はくきかくあや
所以 まそ阿ゆまハハ二柱乃神此ハ
姿甚 似しとく似しとく故とて

誤
あやまるとなりとるもそに阿達志
大 貴高日子根神とつひにそ
吾者 へりきげとつひにき友たれこ
吊 へりきげひ来つるなふとそ
穢 此やとつひに此はあまびに
御佩 へりきげひに此十卷叙
以 せぬきて其喪屋とまりふせ足
離 きてとそと阿ちやりきこは美
ぬのそ 阿のそ乃阿見川乃川とれる喪
やま 山れ其持てきわら大刃乃

名ハ大皇とぞつひる。又此名を
神度御ともふ。

翠鳥ハそふ。美濃ノミ。

川上ハつとふ。

なあれしきたひとぬの神也。
然 光儀甚麗
おとせりておとせりて此神の
顔 光儀甚麗
二谷此あひとよりややく時
其伊豆妹高比賣命其弟名
とけいハきむと思ひくうたひ

あめ 御統 御統
くくく。天照るや。神たたるを此
瓊玉 映 真谷 二 度
にあまだまをや。またふささわさ
らす。つらりしき。たつむ。こめ。め。く。こ
ぞや。けい。うハ。美。振。なり。

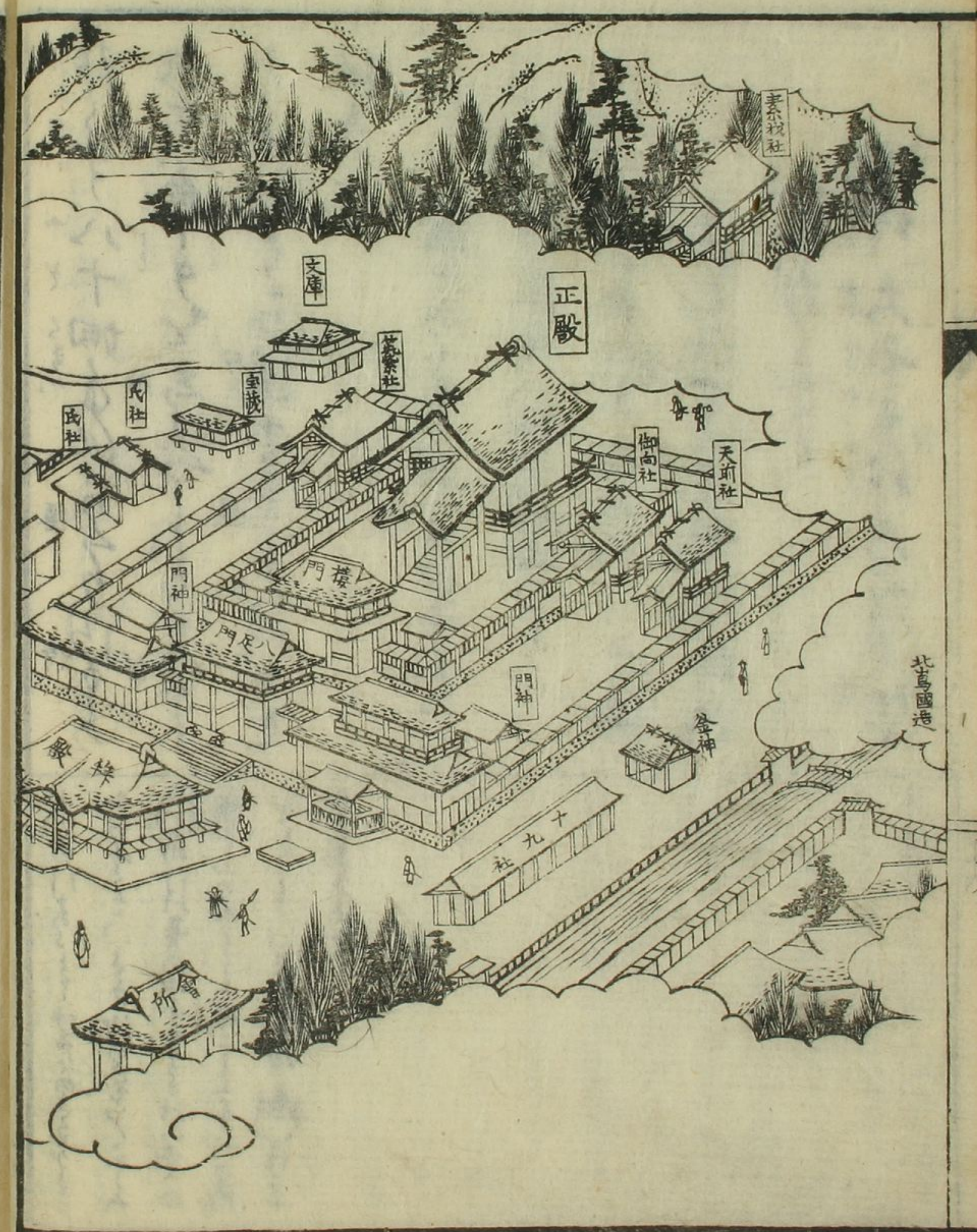
伊呂妹もつるも。

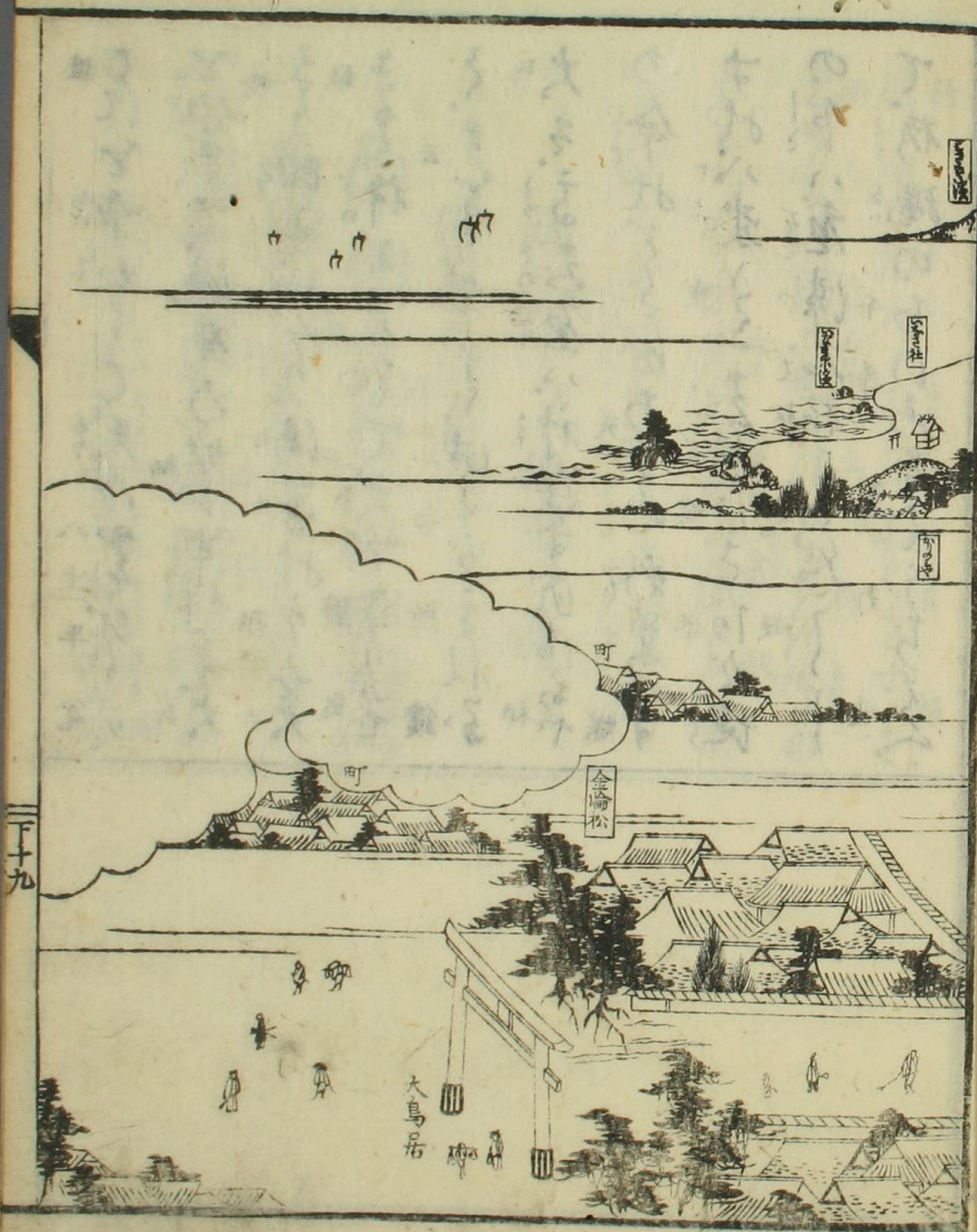
○大國主神玉より此を語り
天照大御神乃此を降る。
又これ乃神をけりていへけ
む。う。思。今。神。又。も。あ。く。此。神。と

△大國主神國さうのらう
○伊都之尾羽張神ハ伊弉那伊弉
神如具土神を祀る。ハ一ツツノ天
とて即ちのツツノ名を天之尾羽張
とて伊都之尾羽張とも云伊都ハ威
ひはるをとりて九て叙ハ佐及と鋒

天聖帝御幸大正
主の御幸は、大正帝御幸に
之より後、大正帝御幸に
御使、大正帝御幸に
御使、大正帝御幸に
大正帝御幸に







下十九



後取
不眼
志也
神建美推命と遣して言句一
りて。つらまののかりまつたを
りま。

○ 赤孫命のあり乃辰

あまの孫のこまのり乃辰
にたて此大赤神なる赤神の命
以りて。つらまののかりまつたを
りま。
○ 赤孫命のあり乃辰
あまの孫のこまのり乃辰
にたて此大赤神なる赤神の命
以りて。つらまののかりまつたを
りま。

△ 赤孫命のあり乃辰

○ 天迹岐志国迹岐志天津日高日耆
能迹美命
天原より葦原中津国に遷りて
○ 天つ日高日耆乃辰
のそくま秀ふむと望む膳まつら
あまの孫のこまのり乃辰
日子と九て男神の孫と比賣とを
稱し比と九て物の靈異ありと云

所知

あまの孫のこまのり乃辰
にたて此大赤神なる赤神の命
以りて。つらまののかりまつたを
りま。
○ 赤孫命のあり乃辰
あまの孫のこまのり乃辰
にたて此大赤神なる赤神の命
以りて。つらまののかりまつたを
りま。

次子日子葛結途々尊命にます。
故そ天火照命此流子天火照命
を尾張連らが祖なり。

大蛇は海あり。 香山ハハ

をかぢやま。

故えをてまき 孫ふまきく日
子葛結途々尊命に命おかせて
尊草原水穂ふまきなり
む田なりと事依一たまふ故
のまきく河ゆりますすべ。天は日

嗣者天地のむき。常徳世徳り

又のまきくハ尺勾玉鏡又草薙
又草薙世れお令神よカ男神天
石つふ神よと孫ひく。のまきく
らくハ尺勾玉鏡をさりて河が石鏡
として若湯前をいつくぐりて
きまきく孫へ次々皇金神ハ尺
乃事とりとらて。まつまごらて
よとけり孫ひく。此ニ柱神ハ尺

寿まの心とまきく。即成玉母ら
ちれあき流るをわかぬもあきく
○八尺勾玉鏡又草薙鏡
岩屋戸のくろく料玉祖命令傳
てま買木の上枝おれ付しとまき
かみく料伊斯許理度賣命令作
て中枝おれ付し八咫鏡なり又鏡
ハ大蛇の尾は中より出たカとを
○常のあま神よカ男神天石門
別神とまきく。このあま神
よか。とれふ切有し神よあま神
此三柱の神も沢山ハ高天原ニ
かりらるの霊と物お移してまき
まきりまきり霊ハけくの所ふ
をうてし其のまきり霊のあま
と准入ハ燈火をいつくまき
とまきく。○ちれのかみいり

あま神とまきく。天照大神の靈を
うてけりまきく。このあま神
庭の穂もあま神よまきく。か
かまきく。おまをなまき
てまきんておら。とまきく。稲穂
てあま神とまきく。尊命ハまつま
ひまきん。おまをわけておま
れつひ食す。と今下てあま神
とまきく。○天つ石鏡をまつま
い。石鏡をまつま。とまきく。
○神籬とまきく。買木と
まきく。まきく。とまきく。とまきく。
○此まきく。おま。小皇御孫
年の苗と住り。まきく。とまきく。
小あま。とまきく。石鏡と買木と
まきく。神の籬と結也。とまきく。

○ 途途藝命

休のけの神宮

○ 天見屋命

○ 布刀玉命

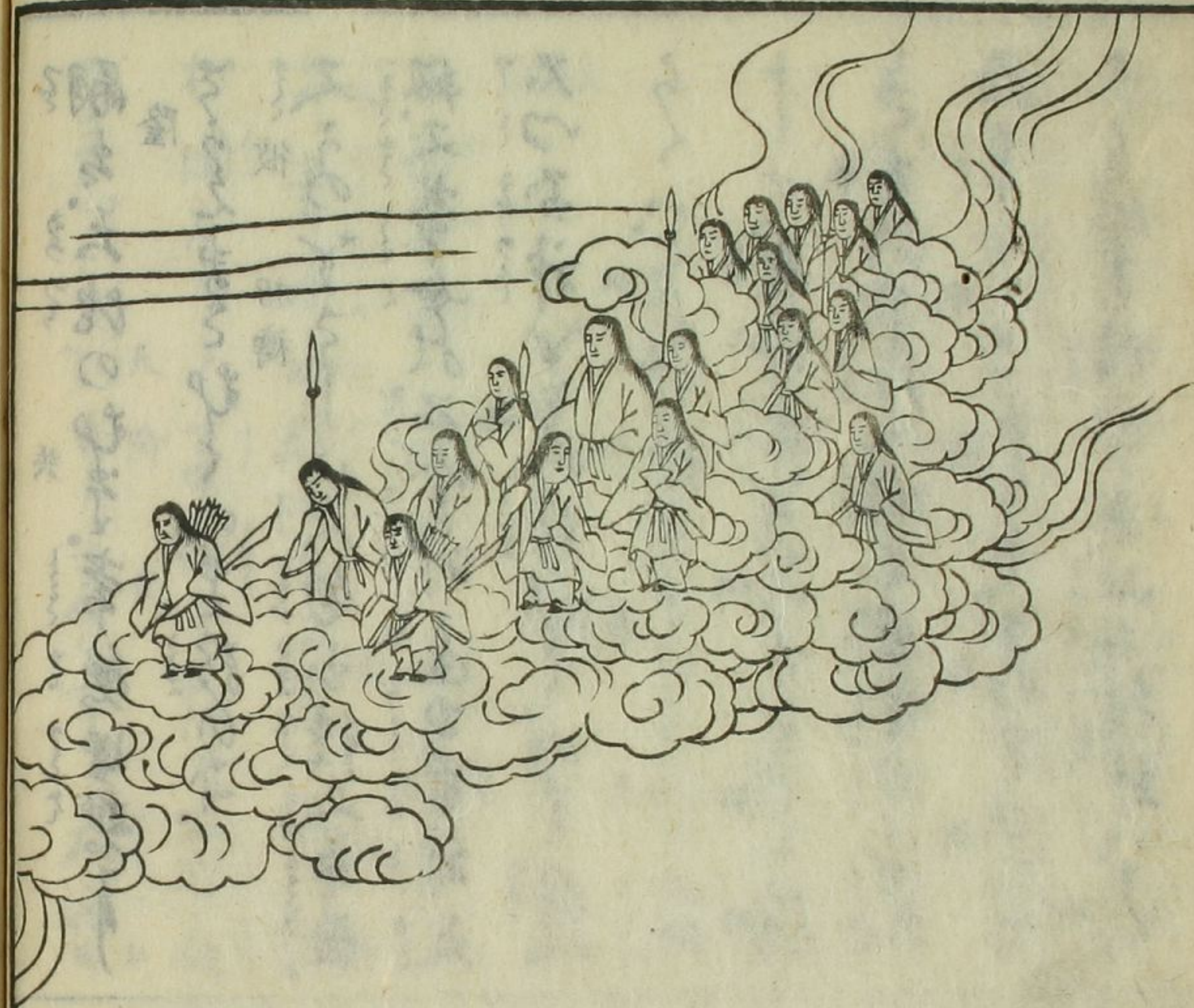
○ 天宇受賣命

○ 伊斯許理度賣命

○ 玉祖命

○ 天忍日命

○ 天津久米命



皇清津命

出津命

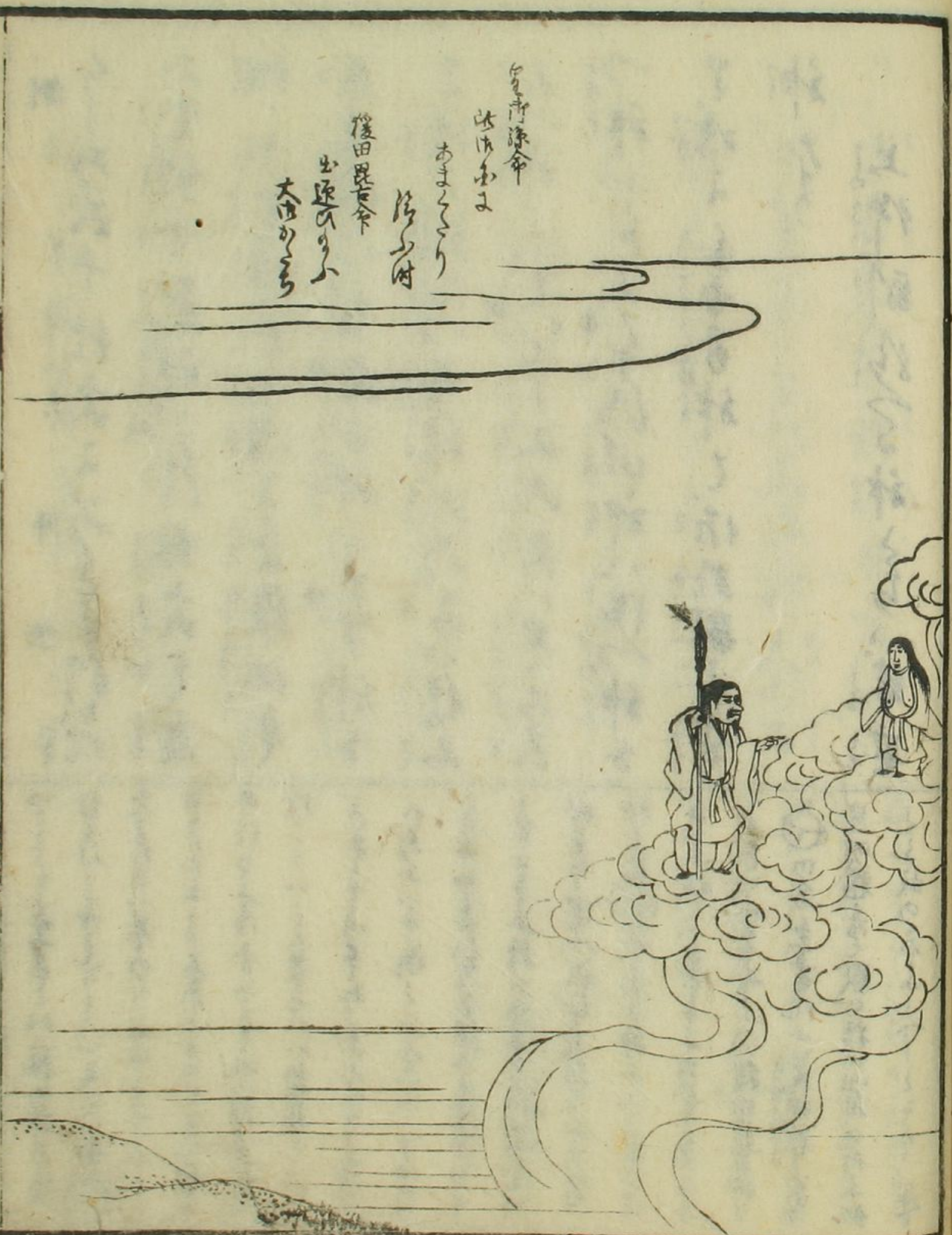
あまのつり

後少府

後田原命

出津命

大津命



下卷

劍 今ろふ十餘文よりまの次
 此 外之文之度
 相ノ坐神なり。次ノ兼羅細也。
 尾張國乃多魚市村にます神を
 是次ニ云石つ神又乃高橋石
 又つ神と云々。又乃高橋石
 つ神と云々。申 申 申
 是次ニ由力別神と佐那縣ノ坐
 神なり。
 上件副神ノ神ニハ坐其

ついてありと此二柱の神等仰
 付れり。○天之八衝
 天ノ上ツ巻のうらわもつ
 日と云々。○此八百あるの
 の位。○此八百あるの
 地よりい。○此八百あるの
 是あり。○此八百あるの
 八千衝。○此八百あるの
 色々。○此八百あるの
 神と云々。○此八百あるの
 更上。○此八百あるの
 〇此八百あるの
 〇此八百あるの
 〇此八百あるの
 〇此八百あるの

湯靈美なり。現湯身はまき
 ず。と云々。大湯神天の石
 屋又。と云々。大湯神天の石
 今に天皇此大湯神。おます
 伊勢國乃多魚市村にます神を
 是次ニ云石つ神又乃高橋石
 又つ神と云々。又乃高橋石
 つ神と云々。申 申 申
 是次ニ由力別神と佐那縣ノ坐
 神なり。
 上件副神ノ神ニハ坐其

獲命の先々ひの神を云々。○此八百あるの
 〇此八百あるの
 〇此八百あるの
 〇此八百あるの
 〇此八百あるの
 〇此八百あるの
 〇此八百あるの
 〇此八百あるの
 〇此八百あるの
 〇此八百あるの

處留 坐
こにとまり帰しつともあり。

○あつたはれ君のなり

故らふ天字更賣命にのり送る

くけ沸あがりたちてはくへまられ

後田毘古古神とバもはく

阿けけまをせまはく

まの更又其神乃のな名は女屋

はくへまのなりたはひも

らとて後女君らそ後田毘古

乃男神は沸名とおひくを

と後女君らとてはくへまのなり

賣命らとてはくへまのなり

伊勢由はゆりてすれら

追聚 廣 兼 秋

をわひあつてのまはくへまのなり

おつてまはくへまのなり

く此魚とてはくへまのなり

す中に海龍まをさびな天字

更賣命海龍おひくへまのなり

やとてはくへまのなり

答

△きんらの君はら

○まの天字更賣命のり送る

送る更賣命より更賣命作ら

まの天の八らまをさびな日向の

引きて町守はくへまのなり

毘古大神小同合はくへまのなり

んはくへまのなり

まの天の八らまをさびな日向の

引きて町守はくへまのなり

毘古大神小同合はくへまのなり

んはくへまのなり

まの天の八らまをさびな日向の

引きて町守はくへまのなり

毘古大神小同合はくへまのなり

んはくへまのなり

まの天の八らまをさびな日向の

引きて町守はくへまのなり

毘古大神小同合はくへまのなり

んはくへまのなり

まの天の八らまをさびな日向の

引きて町守はくへまのなり

毘古大神小同合はくへまのなり

んはくへまのなり

まの天の八らまをさびな日向の

引きて町守はくへまのなり

毘古大神小同合はくへまのなり

んはくへまのなり

まの天の八らまをさびな日向の

引きて町守はくへまのなり

毘古大神小同合はくへまのなり

んはくへまのなり

まの天の八らまをさびな日向の

引きて町守はくへまのなり

毘古大神小同合はくへまのなり

んはくへまのなり

まの天の八らまをさびな日向の

引きて町守はくへまのなり

毘古大神小同合はくへまのなり

んはくへまのなり

ちりてそらとちりて今
 海風の心きげたやうに
 清世く島乃速襲たてまつれ
 り時よ後女君に物ふり
 海風いこ。 但小刀とひも
 ぐれ。

○後田毘古神あざうの辰
 かし後田毘古神阿神河は坐
 くら時よすれどりせすと比良史
 貝いそまを昨合まそてうしは

一かお色強ひさ故そるし沈
 居給ふ時の清名を。 歴夜久清現
 とまよそ湖の清ぶら時乃清
 名と都夫多考清魂とまよそ
 清きく時乃清名と阿知依久山魂
 とまよす

或よ伊勢国志那阿神加木
 社に府権治
 ○大山津見神とらひの辰
 うらに大津日子素戔速彥

△後田毘古神あざうの辰
 ○阿神河は坐 伊勢国志那
 大津村が村小津村が村二村あり
 ○比良史と今今之身月日貝
 今今之身月日貝
 今今之身月日貝

後田毘古神阿神河は坐の辰
 今今之身月日貝
 △大山津見神とらひの辰
 ○大津日子素戔速彥

物ふ今石を以て賣とてうして。返
花之依久花思賣ひりて。命
まげ。天神伊子。命
花乃あまのこま。命
孫ひき。命
で。世の人。命

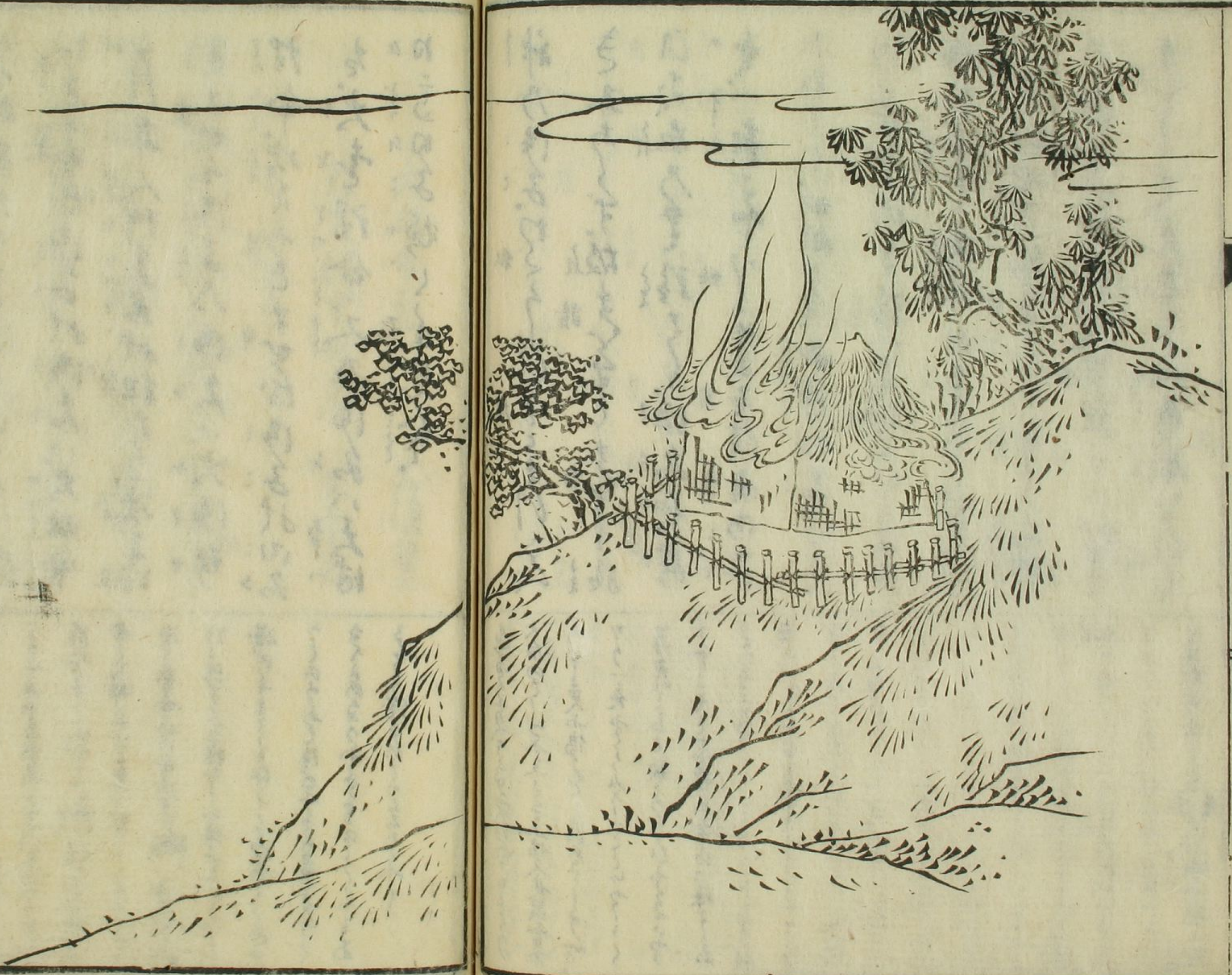
○ 花之依久花思賣ひりて。命
後。命
出。命
と。命

神乃伊子。命
き。命
ひ。命
賣。命
お。命
り。命
伊。命
乃。命
ま。命
ま。命

△ 木花之依久花思賣ひりて。命
○ 伊久花思賣二夜。命
○ 伊久花思賣二夜。命
○ 伊久花思賣二夜。命

○ 伊久花思賣二夜。命
○ 伊久花思賣二夜。命
○ 伊久花思賣二夜。命
○ 伊久花思賣二夜。命

本花之作
夫并のうら
いづくの
か



多し。

故日子書能述く終命湯浸く
日向代可夢にあり。

湯浸は、こころの、可夢は、え。

○湯さらかつ、れどり

故大照命ハ、海佐知、取、
鱈乃、彦、猪、の、猪、取、
火を、理、命、ハ、山、佐、知、取、
毛乃、彦、地、毛、此、取、
き、こ、う、火、を、理、命、毛、伊、呂、兄

△湯さらか、の、

○海佐知、取、取、
ゆ、知、海、佐、知、取、
○山佐知、取、
幸、得、取、
取、取、取、
取、取、取、
取、取、取、

大照命に、さ、作、知、と、え、
ひ、む、ひ、く、三、び、
と、ゆ、
ひ、
い、ろ、せ、
あ、
て、
と、
な、
命、



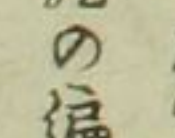
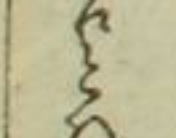
大照命に、さ、作、知、と、え、
ひ、む、ひ、く、三、び、
と、ゆ、
ひ、
い、ろ、せ、
あ、
て、
と、
な、
命、

さらしく海さらしと其のうささらしく今
各返
 其のうささらしく今
弟
 其のうささらしく今
汝
 其のうささらしく今
不得
 其のうささらしく今
終
 其のうささらしく今
失
 其のうささらしく今
兄
 其のうささらしく今
強
 其のうささらしく今
破
 其のうささらしく今
弟
 其のうささらしく今
作
 其のうささらしく今

してはく償のひ不受猶けずてな
 かう鉤本乃えをほむとさうひ
 ちうふ。

海作知らぬ知るさうみあら
 やまさら。 急をな。

○わりのの言れとざり
弟
 其のうささらしく今
坐
 其のうささらしく今
問
 其のうささらしく今
如此
 其のうささらしく今
注
 其のうささらしく今
患
 其のうささらしく今
所由
 其のうささらしく今

▲和田津見の言はなり
 ○塩椎神  此名のをこ凡て物をさ
云り
 知識をさるるをいふ名を 知識大都知
 かりとす  此の先生といふこと
 ○即ち  此のまののぬをたうて
ち
 密の編竹とていふものあり
 密の目とていふものあり
 綿は人のさるる  此のありとて
 下四十一

と其とに... 全坐 奉
... 具
... 奉
... 婚 奉

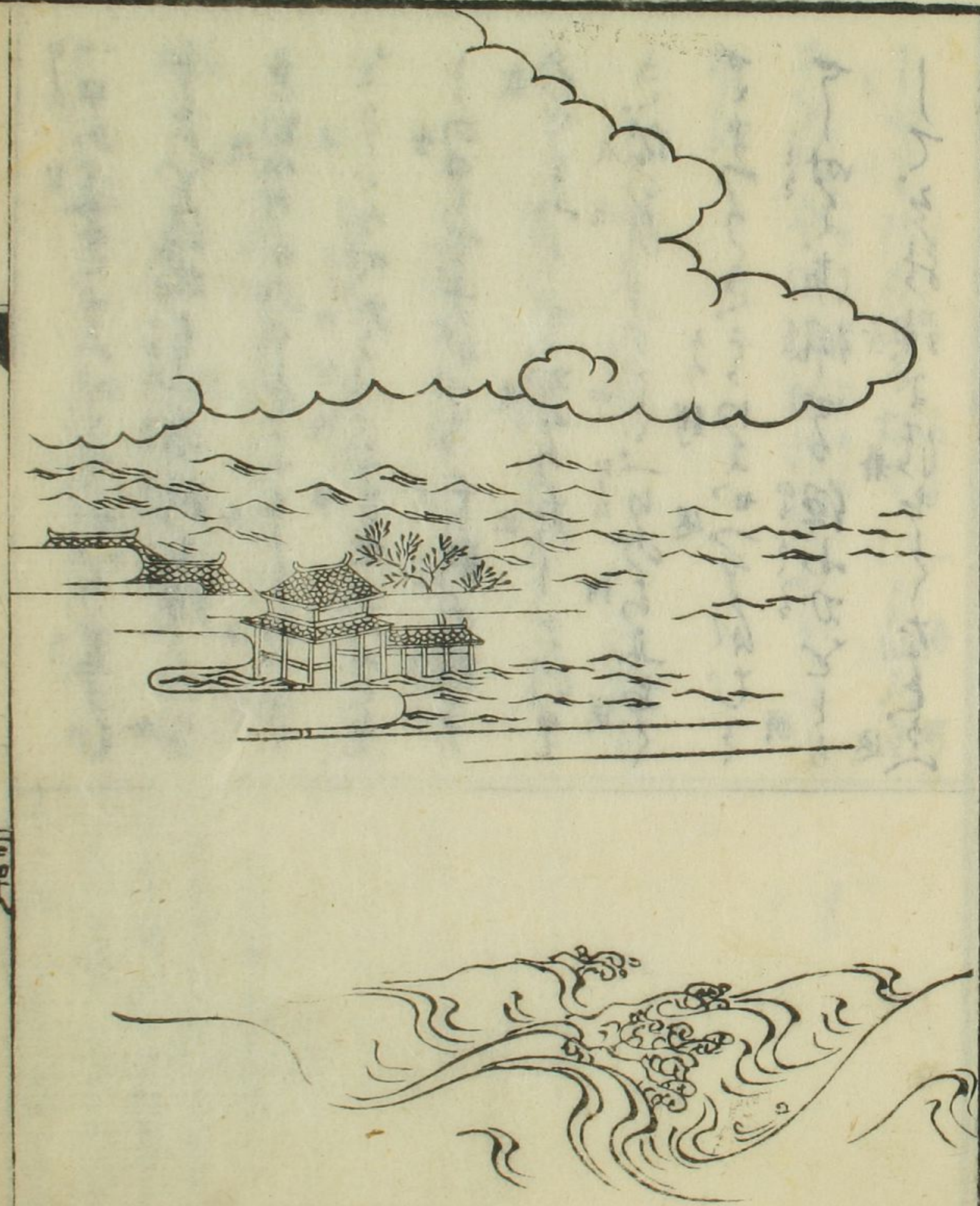
絶たきぬ。

故大遠... 三年
... 初
... 思
... 為
... 聞

して... 白
... 恒
... 昨夜
... 若
... 白
... 同 奉
... 恒
... 昨夜
... 申

うで 賜 後ふたまた 結して 其のあをを
田とほく 營 命ハ田とつり
結へ 兄 せり田とつりばな
吾 田とほく 結ハ
た 吾 水と 掌 三ま乃 間
かろ ず 其 然 為 怨
若 其 然 為 怨
そく せられ 湖 魚 珠 と 却 て おが 溺
ら 其 愁 請
乾 珠 と 却 て 活 如此 為 今

悔 苦 白 結 湖 魚 珠 死
珠 あり 二つ と 換 布 さら 奉
すれ たら こと 結 び 召
び たら 同 今 天 傳
日 言 け 佛 子 意 空 津 日 言 ぶ 玉
出 辛 復 命
送 奉 復 命
にお かり する 復 命
さむ 同 各
厚 け 玉 限
て 玉 尋 音

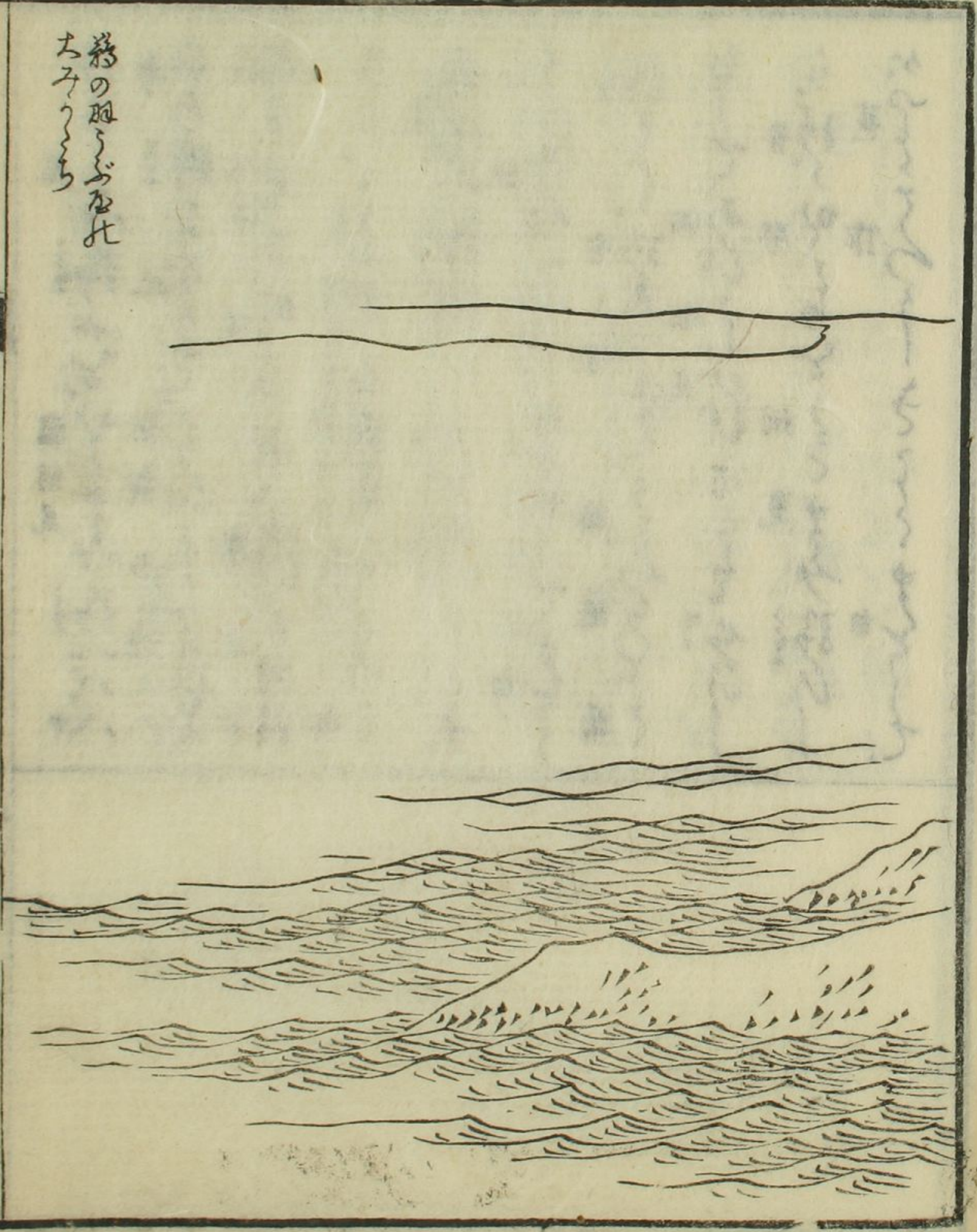


下四八

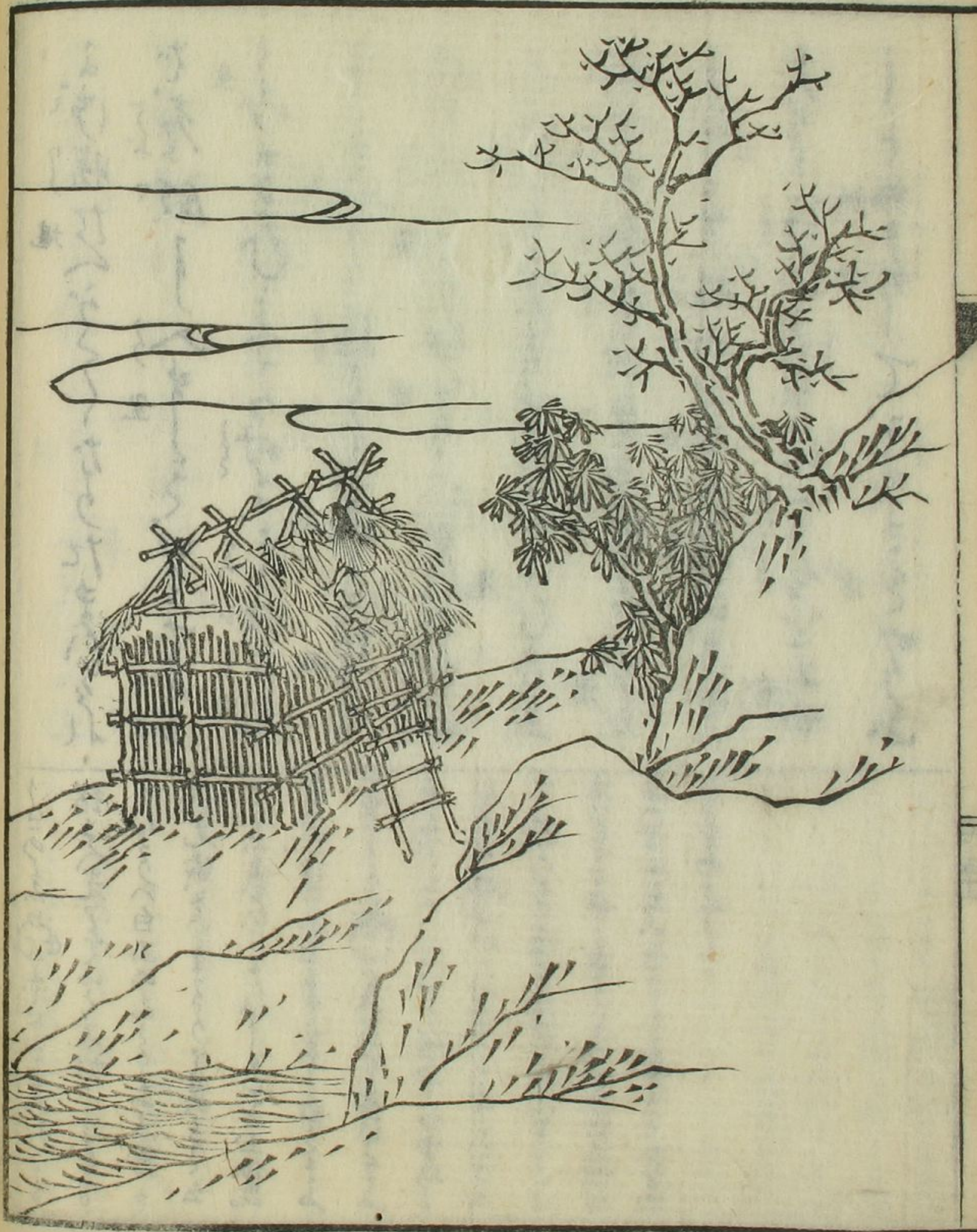


本を程命りし所ま
より野々々々々々々
小坪に産く大ま可也

霧の廻るを北
大みつらち



下五十一

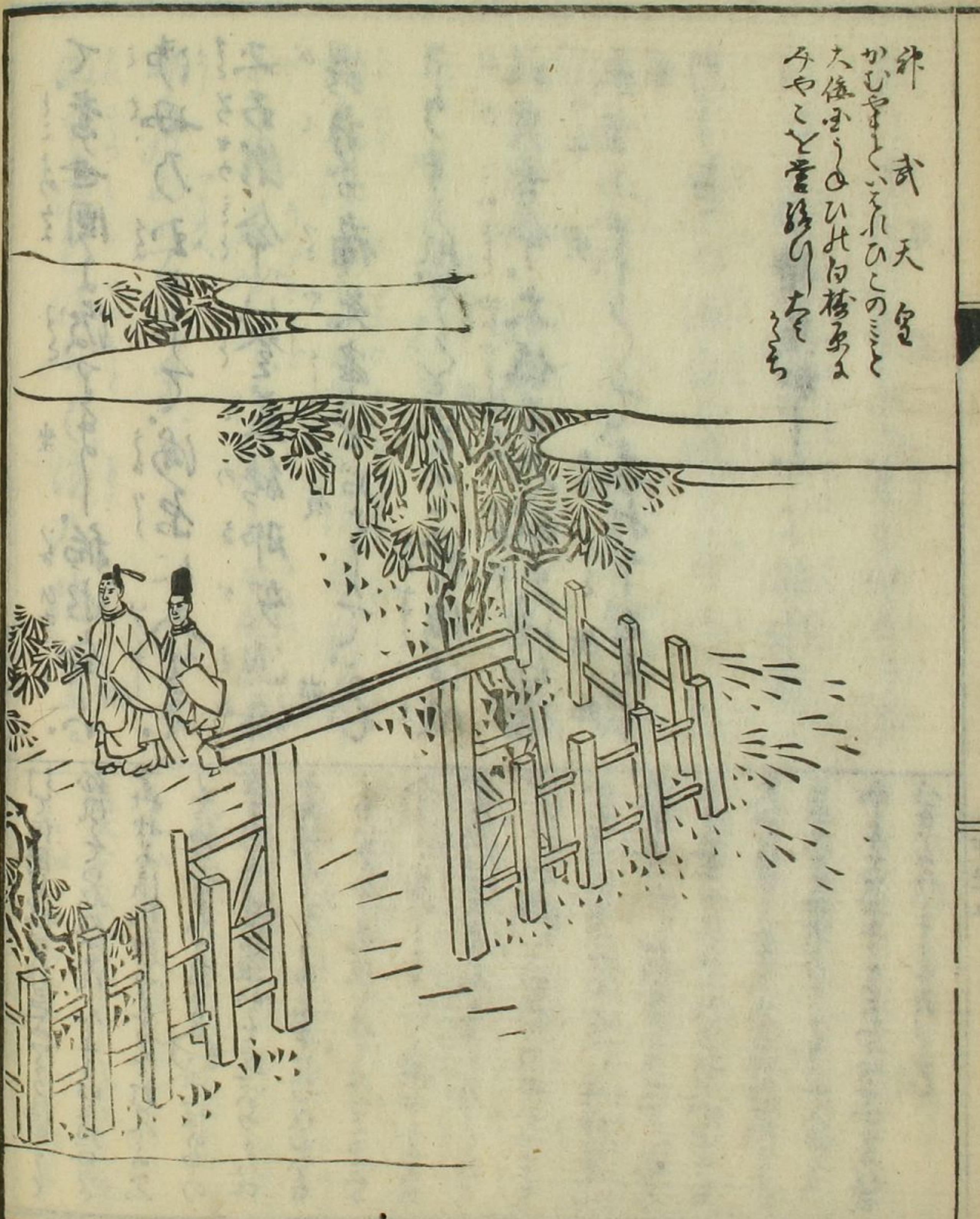
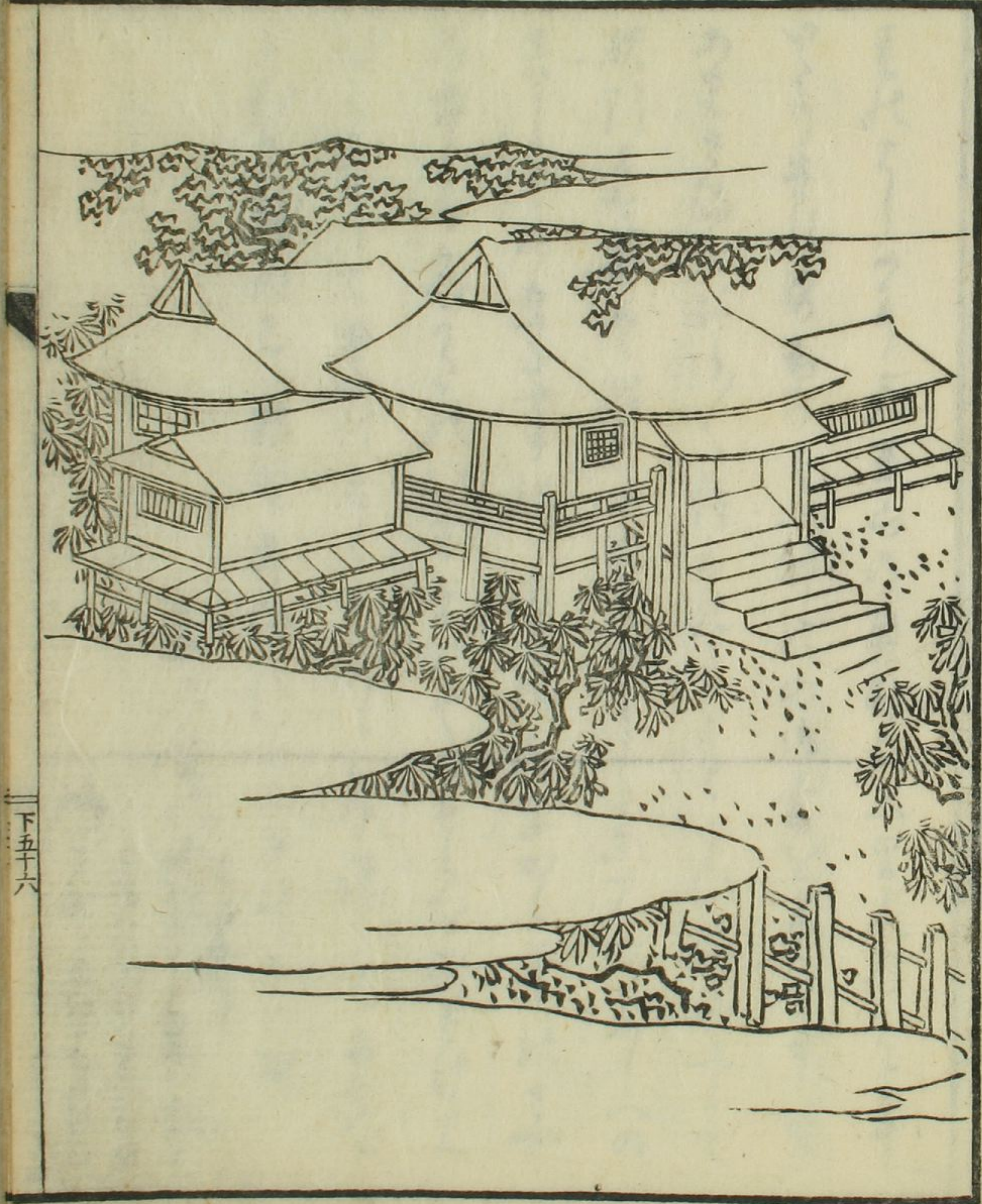


物もほほいその何見
 沸んよ〜みつと色〜きいえ
 堪 縁 日足 奉
 づる〜し〜りてそれ芽玉依
 附 献
 露賣ふはをそ沸やとれとたて
 光 儀
 まるし給ひらるそ沸や赤玉を
 備さへひりれど白玉は君がよそ
 貴 夫
 ひたあ〜らやら〜故そい
 奥
 らら乃神〜へ給う沸やおと
 鳥 鴨 着 吉 率 寝
 けりりかどど〜ゆよわづか給

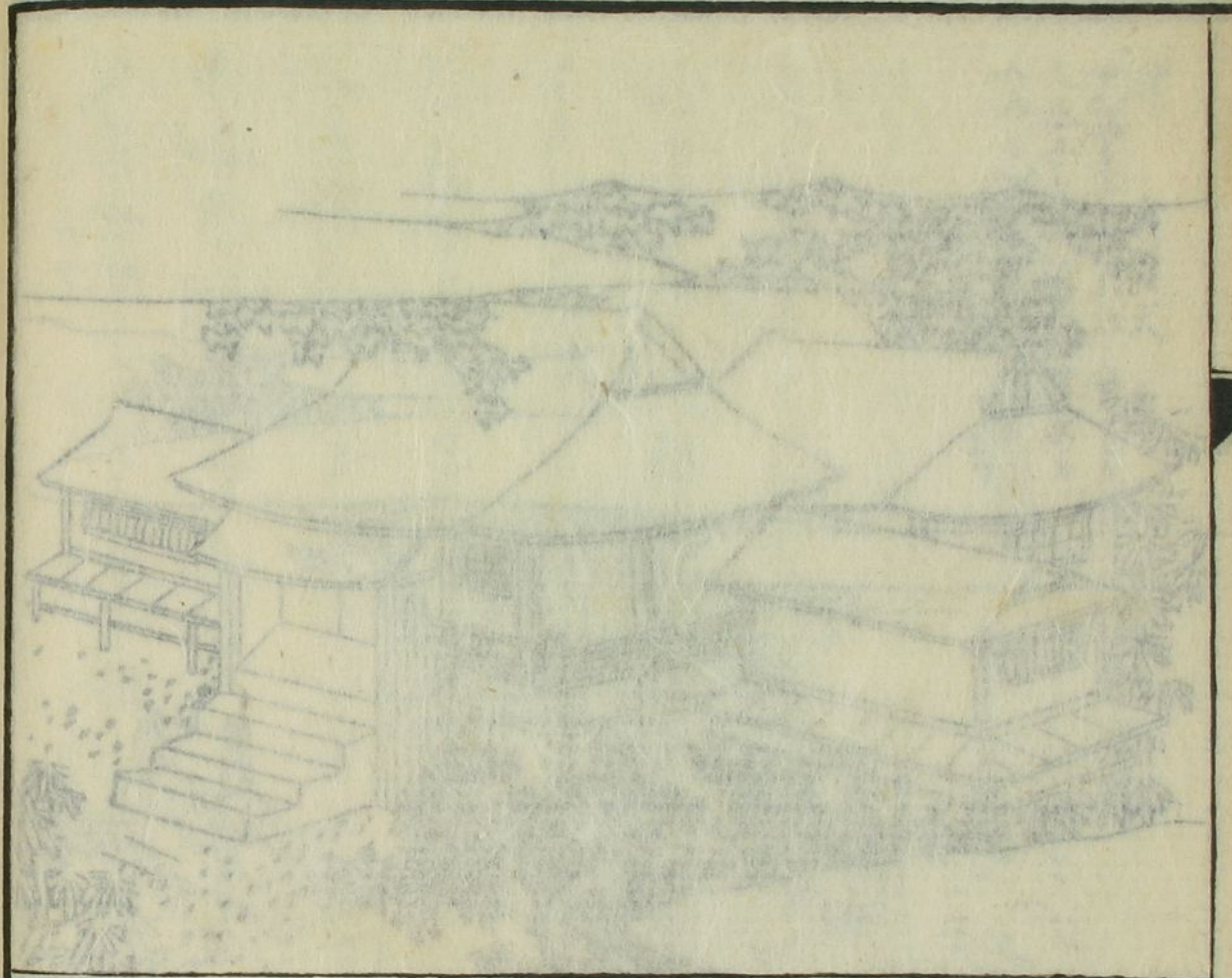
妹もわきわき世盡
 ぬいこか、でよのこらちのミヤ
 敷日子極く見命ハ言子極文
 五百 餘 八十歳 坐
 崩 前
 かむさりまぬ沸や〜やうて
 陵 即
 その言子極くは西乃くふあり
 又く言ふ乃うと〜ら〜と〜と
 目

○ 鶺鴒草不命命此の子なられたり
 かくて此天は日高日子波限建勢
 尊草不命命沸姨玉依露賣

△鶺鴒草不命命此の子なられたり
 ○ 沸姨玉依露賣命命此の子なられたり
 今此とこの天は日高日子波限建勢
 尊草不命命沸姨玉依露賣



新 武 天 宮
 かむまといふれひこのこと
 大徳まうひれ白梅あま
 今やこと言路のたを
 くら



此の山、美しき山也其の
 名、美山と云ふなり其の
 谷の深きこと名に書す
 十三年

妻共くしり天万らの奥形ふ山里人乃とも
 たり美しき山也其の神代の湯書を其まき申
 ありさ山をいりり結うたくとらひ給ふか
 破引ふを其書其書と書ゆりりりりりりりり
 其りりりりりりりりりりりりりりりりり
 乃中よりりりりりりりりりりりりりりり
 むりりりりりりりりりりりりりりりりり
 そむいりりりりりりりりりりりりりりり

藤乃舎れあはれりりりりりりりりりりりり

皇大道此大もやハもよく候しくぬる
大神もち此大乃も形も同じかまけ
此れおもむきともし本歌屯山
歌むかめもの志らせまゝおも
ふれる延此吾兄のあたくり
あらうて三きかむと希む
此れぬみ此屋より田うちれ
あ歌常盤草ちぬ書よい歌
かや此

うへよきくたぬきき 公此
免て此御詞をし七下したま
かものかきよみよるこほひ
やれまよせり行はま原く
よ一由心よ万加物 板よ
文政十せせいぬやれおよひ

畑田る華

皇天之道在六極
大孝
文德
...

御用調進

諸書物製本處

三條通御幸町角

大谷津逮堂

皇都書林

吉野屋仁兵衛版

92999

